

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370600512		
法人名	社会福祉法人平和会		
事業所名	グループホームいいとよ(北乃家)		
所在地	岩手県北上市村崎野12地割74番地28		
自己評価作成日	平成25年8月31日	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370600512-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0370600512-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年10月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯に立地し、施設裏には散策路があり、花壇には色とりどりの花を咲かせている。自治会に加入して4年目になり、地区清掃や運動会等、積極的に地区行事に参加している他、施設へ呼び込み交流を図る取り組みもしている。花見やぶどう狩り等、四季を感じる行事を行ったり、外出の機会を増やしている。家族様とも密な関係を築いていけるよう、年2回交流会を実施している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県立中部病院の真西300mほどの田園地帯に同法人の経営する特養、通所介護施設と一体となって、2ユニットの「グループホームいいとよ」がある。このホームの建物の西側に隣接して整備された公園があり、このホームの利用者の散策コースになっていて、一般の近隣住民との交流の場にもなっている。当ホームの掲げる理念の中に「地域との交流を図り、つながりを大切にしたい」という思いから自治会に加入し、積極的に地域行事に参加し、交流を図るようにしている。また、利用者が自分の穏やかな生活が継続されるように、職員は笑顔で優しい心でケアに当たるように気配りしている。特徴的なことは、(本人・家族が)希望すれば看取りまで行うことを明確にしており、説明がなされていることである。また、職員の福利厚生もしっかりと整備され、安心して働ける職場環境のために、法人施設内に認可外保育所を設置している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で考え、定期的に見直しをしている。今年度新たに見直し、目の付きやすい場所に貼り、常に確認できるようにしている。	理念の見直しについては、3年に1度は職員全体で良く話し合いをして行き、その趣旨を徹底するために職員の目につき易いところに掲示し、職員会議やミーティングなどで話題にして確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し4年目となる。回覧板をまわしてもらい、地区行事に積極的に参加している。また、GHIに来て頂き、交流を図っており、行事の際は常会に参加し、声をかけている。	自治会に加入し年会費も納入している。自治会の行事で例えば、「夏まつり」「盆踊り大会」「一斉清掃」「草取り」などの行事には利用者と一緒に参加している。自治会の常会には職員の代表者が参加し、事業所の内容を知ってもらうようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生との交流、資源回収に協力している。年4回発行の広報は、家族や隣接の交流センターに配布している他、回覧板でまわしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、利用者の状況や行事等の報告をし、意見交換や情報を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、事業所内での利用者の様子の報告、介護保険などに関する情報提供などのあと、地域との繋がり等について話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加。各種手続きに関して、助言・指導をいただいている。	様々な利用者の手続き等のことなどで、定期的に担当窓口を訪問するほか、介護度の区分変更の手続き、お互いの情報提供、指導等を受けるようにしている。また、利用者と一緒に、本庁の担当窓口へ、特定疾病の申請に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠している。常時開放に向け、研修等から学んだことを活かしていけるよう、職員会議で話し合い、情報共有している。	身体拘束に関する研修を受けた職員は、その内容を他の職員に復命し、身体拘束のないケアを目指している。ベットから離れる時の転倒予防のため、離床センサー(マットコール)を2種類、使用している。	夜間防犯上玄関の施錠はやむをえないと思われるが、日中職員が手薄になったとき、短時間であるが、不意な外出防止のために、玄関を施錠することがあるようであるが、職員配置の工夫などにより、日中の安全な開放に向けての取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員間で意識してケアに当たり、不適切と思われるケアは注意しあうようにし、見過ごがないようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいない。職員全員が理解できるよう、資料、勉強会等で情報共有していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて十分に説明し、疑問や不安点を聞き出している。付加加算についても、十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当制を設け、毎月利用者の状況を家族へ文章にて報告している。面会等の際にも近況を伝え、面会簿にメモ欄を設け、意見や要望を表せるように努めている。年1回の総会、年2回家族会を開催して交流している。	利用者2人に1人の担当者を配置し、日常のより細かい観察や、面会者記録、家族あて送付文書の作成等をおこなうようにしている。また、家族会の開催、夏まつり、新年会への招待等を通して家族の意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の業務に対する取り組みし姿勢・考え方及び利用者処遇改善等個人面談を行い相互に意見交換して理解を深め、全体意見を集約統括して、職員会議で話し合いを実施した。この成果業務に活かしている。	職員の持つ様々な意見は各委員会、例えばケアのあり方についての改善は処遇改善委員会で話し合わせられ、更に、全体の職員会議で協議され実施に移されるような仕組みになっている。トイレの見守りの仕方についての方法の掲示などは一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整えるため、勤務姿勢が同一方向で取り組む体制を確立するため、人事異動を実施した。不満や不平をなくすため、何でも上司、同僚職員はお互い何でも話し合える環境作りに全員で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の業務取り組みと実績を外部で発表することを積極的に取り組んでいる。発表することは常に研鑽することであり、外部評価を受けることは業務の改善及び職員のモチベーションに繋がる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会定例会には、職員が交互に出席して情報収集するほか、GH利用者処遇などについて意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向、生活状況、身体機能など確認し安心して過ごしてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から不安、意向を確認している。気になることがあればその都度話を伺い対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況、生活環境などに応じてサービスの提案できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもって過ごしてもらい、入居者と職員が協力し支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに一緒に参加していただき、できる範囲で協力をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もなじみの人、場所との関係が保たれるように支援している。	グループホームの利用前からの美容院へ出かけたり、馴染みの美容師さんに来てもらったりするなど、なじみの関係継続が出来るようにしている。前に通っていたデイサービスの親しい方、かつての近所の方の訪問などもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないような環境づくりや個別に対応するようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもいつでも来ていただけるように声かけしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いをや気持ちを汲取るようにしている。本人からの聞き取りが難しい場合は家族から聞いている。	本人の思いや気持ちに添うことが出来ている。家族が面会に来る度、帰りたいと訴える方に、通院日の前日に外泊し、受診後ホームに送って来る、というプランを家族に提示し、外泊が可能になった例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、面会に来られた家族より生活歴等の情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ケース記録、カンファレンスより入居者の現状把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とのカンファレンス、本人、家族意見をもらい作成している。	介護主任、居室担当職員、計画作成担当者とのカンファレンスで、本人、家族、訪問看護師の意見を取り入れ、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し情報共有しております。状態変化があった時はその都度見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な支援ができるように取り組んでいる。(通院介助、床屋、外出など)		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて地域の床屋、商店を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院に付き添いが難しい場合は、職員が対応しております。本人、家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。	通院の時は原則的には家族が付き添うこととしているが、困難な時は職員が行なっている。それぞれかかりつけ医を持っているが、緊急時には北上済生病院や中部病院との協力医関係を締結しており、適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることは職員間で共有し訪問看護へ報告、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院の看護師、医療相談室から情報収集を行い退院後の生活に支障がないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを実施していることは入居時に説明しております。重度化してから家族と話し合うことが多いので、今後は早い段階で本人、家族の意向を確認したいと考えている。	これまで、3名の方の看取りを経験している。家族が、ホームで最期を見てほしいと、希望されることはありがたいことと思っている。どうしたら良い最期を迎えてもらえるかを考え、支援している。看取り後、医師とカンファレンスを実施し、担当職員の心のケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っておりません。訪問看護、訪問診療時に気になることがあった時は対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しております。地域の方にも避難訓練に参加してもらい避難誘導を手伝ってもらっている。	自治会の常会に職員が出席して、地域の方々に避難訓練の協力依頼をして参加いただき、年2回実施している。	夜間想定訓練を実施しているが、夜間に近い薄暮時に実施することとか、夜間に職員だけのミニ訓練を実施する等の取り組みを検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を深く理解し、尊重し、誇りや自尊心を傷つけないような対応を心がけている。日々の関わり方で気づいた事があれば、職員間で注意をしたりと、対応、声かけを意識しながら行っている。	傾聴の気持ちを大切にして、穏やかな雰囲気作りのもと、人生の先輩としての尊厳を傷つけないよう配慮しながら接するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方には選択肢の幅をもたせ、希望に添えるような対応を心がけている。今まで住みなれた環境や習慣等を把握し、コミュニケーションの中から本人の思いや希望を聞きだせるよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているが、その日の気分や本人のペースに合わせた対応を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に行かれる他、定期的に床屋に来苑していただき散髪している。季節に配慮しながら、本人の好みの服を選べるよう対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは、利用者と一緒にできるようにしている。献立には、季節にそったものや畑で収穫したものを提供したり、選択メニューや行事食を取り入れている。	週に1回、昼食は選択メニューにし、自分好みのものを食べられるような工夫がされている。季節の料理、伝統の郷土食も取り入れている。食事後の片付けは出来る方には積極的に手伝ってもらっているようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のアドバイスや指導を下に、より良い食事を提供できるようにしている。水分・食事摂取量を記入し、十分な栄養と水分が取れているか確認している。水分摂取が難しい方にはトロミの使用や、ゼリーで代用したりしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底している。出来る所までは自力でやってもらい、仕上げ磨きは職員が行っている。義歯の方は夜間消毒している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月、排泄委員会を開き、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導やパット使用について検討している。	細かい観察により、それぞれの排泄パターンを把握し毎月の排泄委員会で検討し、それとない誘導や、パットの使用の使い分けにより、失敗による羞恥心の排除に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないよう乳製品や寒天の摂取、こまめな水分補給を心がけている。また、食事にも食物繊維の多いメニューを取り入れている。改善されない場合は、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の希望にそって対応している。入浴に抵抗がある方や気が乗らない方には、声かけの工夫や時間をずらすなどし対応している。	2ユニットのうち、南乃家では機能的な機械浴槽が導入されており、入浴介助が困難な利用者を使用されている。入浴は週2～3回である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動して貰い、夜間の良眠につなげるよう支援している。利用者一人一人が自由に居室にて過ごしたり、休息ができるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも見れるようファイリングしている。薬が変更になった場合は、申し送りに記録し全員が把握できるようにしている。服薬マニュアル、個々の服薬方法のマニュアルを作成し、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	米とぎ、食器拭き、洗濯たたみ等、利用者個々の能力や習慣、生活歴に応じた役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の利用者が増えたが、可能な限り散歩や買い物、外食等出かけられるよう支援している。また、季節にそってお花見やぶどう狩りなどに出かけている。	出来るだけ事業所内に閉じこもらないよう、外食、買い物時の同道、普段の散歩、散策、季節の花見、ぶどう狩り、紅葉狩りなど変化に富んだ生活が送れるよう支援をしている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームいいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ職員が管理している他、立替払いにて対応している。自分で所持している方は、外出の際に支払えるよう職員が見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話をかけられるように対応している。また、携帯電話を所持している方もおり、かかってきた際等、スムーズに話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様より頂いた花を玄関に飾っている。行事等の写真や季節感のある掲示物を飾っている。食堂には天窓があり、採光が良い。ソファやテーブルの位置も使いやすいよう配置し、南乃家・北乃家と自由に行き来できるようになっている。	彩光、室温とも良く管理されていて、穏やかに生活ができるようになっている。廊下には自分たちで作った作品、行事のときの写真などが貼られていて楽しかった日々を思い出せるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は各々の居室で過ごしていただいている。ソファや談話室を利用し、利用者同士で過ごしてもらったり、職員と1対1で話ができる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコンを設置している。テレビや家族写真や装飾品等、馴染みの物を持ってきて頂いている。各居室には、利用者が作った作品や塗り絵等を飾っている。	居室への私物の持ち込みは、自由としている。備え付けのものは、ベットやダンスなどであるが、各居室に洗面台がついていること、エアコンがついていることが特徴的である。壁には思い出の写真、作品などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札、トイレには貼り紙をしている他、ベッドの配置なども利用者の状態に合わせて設置している。		